

# 大塚地区



# 大塚地区町会連合会

● 昭和43年2月結成

豊島ヶ岡町会	大塚坂下南町会
大塚坂下北町会	大塚上辻町会
大塚窪町町会	大塚一・二丁目町会
文京中央町会	久堅自治会
久堅町民会	久堅親交会
久堅西町会	春日二丁目町会
東青柳町会	第六天町会
武島町会	水道端町会
西江戸川町会	茗荷谷町会
大塚仲町町会	大塚四丁目協力会

## ■ 歴代会長

初代	並木 顕夫	(昭和43年2月～昭和48年5月)
二代	小林 次郎	(昭和48年5月～昭和56年6月)
三代	秋山松太郎	(昭和56年6月～昭和63年5月)
四代	横山 長	(昭和63年5月～平成2年5月)
五代	安田 重春	(平成2年5月～平成10年3月)
六代	内藤 十三	(平成10年3月～平成14年4月)
七代	柴崎 六郎	(平成14年4月～平成16年9月)
八代	鶴島 信通	(平成16年9月～平成18年4月)
九代	鈴木 伸男	(平成18年4月～平成25年5月)
現会長	諸留 和夫	(平成25年5月就任)

## 地区町会連合会のあゆみ

大塚地区町連の年間の活動としては、総会、役員会、全体町会長会、伝統芸能鑑賞会、宿泊研修会、新年懇親会等があり、これらの活動を通じて、会員相互の親睦と各単位町会の発展向上に努めています。

また平成25年度より、全体町会長会の開催に合わせて区役所の管理職を講師として招き、区の課題について勉強会を開催しています。

### 「地域再発見！！大塚マップ」と音声ガイド「文京区・大塚百景」について

大塚地区町連では、大塚地域のさらなる発展を目指して、平成21年度に「大塚マップ」を、また平成23年度には「文京区・大塚百景」を、東京都が行っている「地域の底力再生事業」を活用し作成しました。

「大塚マップ」は、多様な世代の住民、とくに若い世代のマップ作成への参加を促すことによって、内側から地域の活性化を



全体町会長会での討議風景①



全体町会長会での討議風景②



全体町会長会での討議風景③

図るとともに、作り上げた情報満載の楽しいマップによって、外からも多くの人を呼び込んで、大塚地域全体の活性化を図ることを目的として作成しました。出来上がった地図は、大塚地区のすべての世帯に配布しましたが、まだ若干大塚地域活動センターに残っています。必要な方には差し上げますので、窓口で申し出てください。

さらに、オリエンテーリング感覚で、もっと多くの人に大塚の地域を散策していただくと考え、「文京区・大塚百景」を作成しました。これは、マップと音声ガイドペンを頼りに、町会員により大塚百景に選定された名所・旧跡を、各自が自由に散策するというものです。

コースは、「西北コース」と「東南コース」に分かれています。さらに、短時間でも回れるように、「西北コース」は、「小石川上流コース（行程3km・約1時間）」と「水窪川周辺コース（行程4km・約1時間30分）」に、「東南コース」は、「小石川台地コース（行程4km・約1時間30分）」と「小日向台地コース（行程3km・約1時間）」に分かれています（マップ参照）。

マップと音声ガイドペンは大塚地域活動センターで貸し出しています。是非ご利用ください。



伝統芸能鑑賞会で落語を聴く①



伝統芸能鑑賞会で落語を聴く②

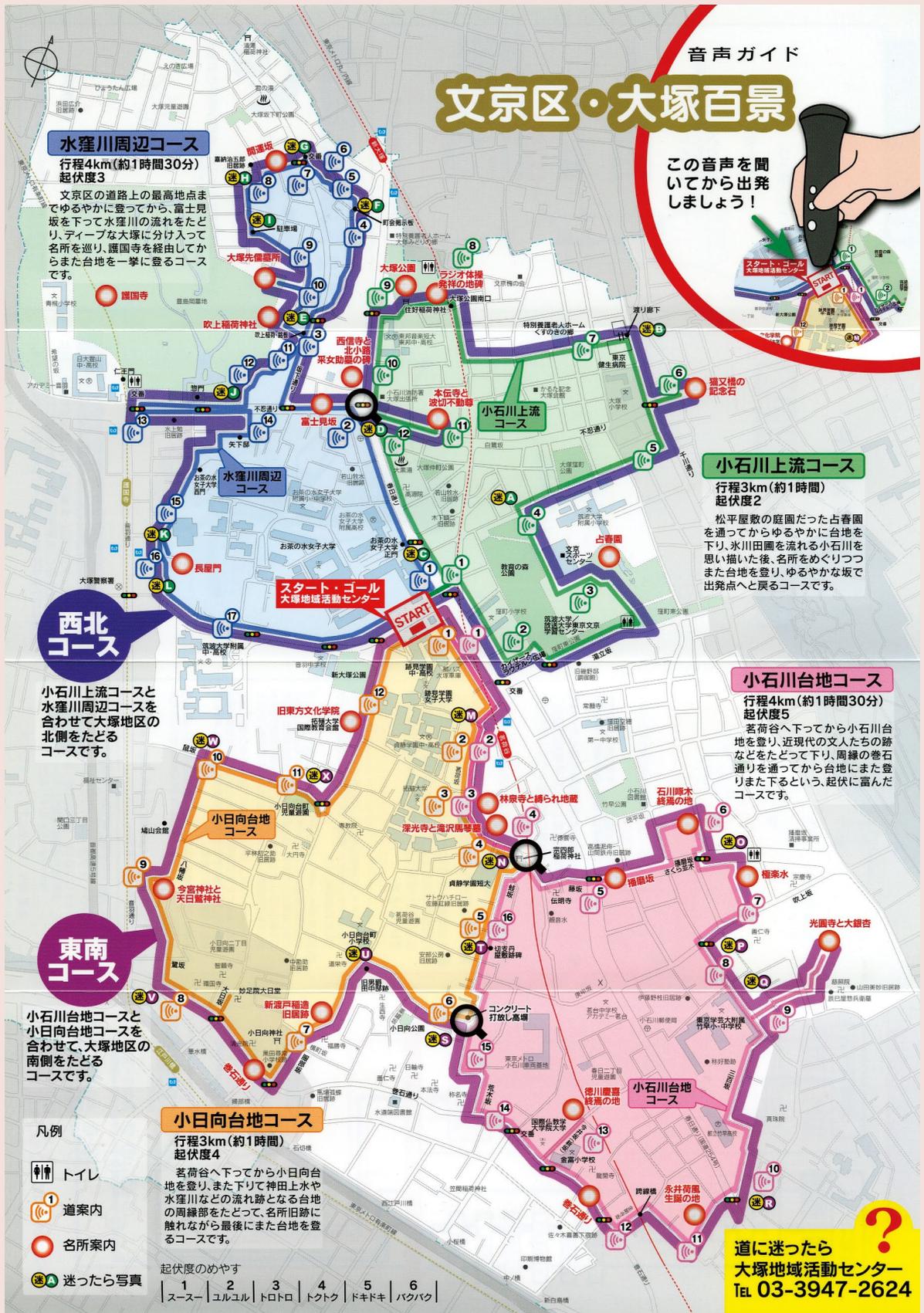


区民課長を講師に招いての研修会



平成24年宿泊研修会（箱根吉池旅館の前庭にて）

# マップ



## 音声ガイド 文京区・大塚百景

この音声聞いてから出発  
しましょう！



### 水窪川周辺コース

行程4km(約1時間30分)  
起伏度3

文京区の道路上の最高地点までゆるやかに登ってから、富士見坂を下って水窪川の流れをたどり、ティーンな大塚に分け入って名所を巡り、護国寺を経由してからまた台地を一挙に登るコースです。

### 小石川上流コース

行程3km(約1時間)  
起伏度2

松平屋敷の庭園だった占春園を通過してからゆるやかに台地を下り、氷川田園を流れる小石川を思い描いた後、名所をめくりつまた台地を登り、ゆるやかな坂で出発点へと戻るコースです。

### 小石川台地コース

行程4km(約1時間30分)  
起伏度5

茗荷谷へ下ってから小石川台地を登り、近現代の文人たちの跡などをたどって下り、周縁の巻石通りを通過してから台地にまた登りまた下るといふ、起伏に富んだコースです。

### 西北コース

小石川上流コースと水窪川周辺コースを合わせて大塚地区の北側をたどるコースです。

### 東南コース

小石川台地コースと小日向台地コースを合わせて、大塚地区の南側をたどるコースです。

### 小日向台地コース

行程3km(約1時間)  
起伏度4

茗荷谷へ下ってから小日向台地を登り、また下りて神田上水や水窪川などの流れ跡となる台地の周縁部をたどって、名所旧跡に触れながら最後にまた台地を登るコースです。

- 凡例
- トイレ
  - 道案内
  - 名所案内
  - 迷ったら写真

起伏度のめやす  
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |  
| スー | ユル | トロ | トク | ドキ | バク |

道に迷ったら  
大塚地域活動センター  
Tel. 03-3947-2624

## ■ 歴代会長

初代 上杉 慎吉

二代 嘉納治五郎

三代 牧野 英一

四代 金井 又美 (昭和24年7月～昭和50年4月)

五代 並木 銈造 (昭和50年5月～昭和61年8月)

六代 石 正之 (昭和61年9月～平成5年8月)

七代 下田 弘美 (平成5年9月～平成10年3月)

八代 土橋 正平 (平成10年4月～平成24年3月)

九代 鎌田 邦彦 (平成24年4月～)

## 町会のおゆみ

大正10年創立という古い歴史を持つわが町会は文京区の北西に位置し、豊島区との境に接した緑豊かで、とても閑静な住宅街である。真言宗豊山派大本山の護国寺と豊島ヶ岡墓地（皇族墓地）の周りを取り囲むように大塚5丁目があり、その一部と6丁目の大半で構成し、面積は非常に広い。町会名も豊島ヶ岡の名称をいただいた。

3代までの町会長は憲法学者の上杉慎吉氏、講道館創設者の嘉納治五郎氏、刑法学者で文化勲章受章者の牧野英一氏と、そうたる顔ぶれだが、残念ながら歴代や在任期間は定かでない。その後、金井又美氏が戦後の復興期から25年の長期にわたり先頭に立ち発展の礎をつくり、後に続く歴代の町会長や諸先輩の薫陶によって会員数は増加していった。

町会内には約1400世帯が居住しているが、護国寺や日大豊山中高等学校、私立音羽幼稚園などの学校法人も会員に加入していただいております。町内会行事等で大変お世話になっている。

15年間在任した土橋正平会長の後を受けて平成24年度から鎌田邦彦・体制がスタート。町内会のコミュニケーションを

より深めていくため、24年度から『豊島ヶ岡だより』（季刊・A4判2ページ）の発行を始めた。当地域も年々、新住民が増加一方で高齢化の波とともに一人暮らしのお年寄りも多くなり、町会のさらなる発展には新・旧住民の交流が欠かせない。

私たちのエリアは歴史のある古いまちの特徴でもある木造住宅密集地域だ。首都直下地震の備えをおろそかにできない。

このため「心の通いあうコミュニティづくり」をスローガンに地域の安全、安心対策に取り組んでいる。

学童とのかかわりにも力を入れており、2つのスポーツクラブ（野球、ミニバスケットボール）が活躍。祭りのほか、バス旅行、バーベキュー・餅つき大会なども青年部の恒例行事になっている。



12月の風物詩・餅つき大会

## ■ 歴代会長

初代	並木 顕夫 (昭和27年5月～昭和50年10月)
二代	梅田 叡三郎 (昭和51年2月～昭和58年8月)
三代	高澤 正 (昭和58年8月～平成6年6月)
四代	柴崎 六郎 (平成6年6月～平成16年8月)
五代	杉山 元一 (平成16年8月～平成17年12月) ※代行期間 (H16.8.28～H17.8.28)
六代	曲木 茂 (平成17年12月～)

## 町会のあゆみ

大塚坂下南町会は大塚5丁目、坂下通りを中央に左右に位置し、豊島ヶ岡御陵の東側に沿う地にあります。町会内には鎮座百周年を迎えた「吹上稲荷神社」や「大塚先儒墓地」もあり、ビルやマンションが多い都会に位置しながらも、緑が多く自然の中に季節を感じる事の出来る地であります。

町会の起源は昭和27年初代並木会長が会員相互の親睦及び福利増進と発展向上に努め、隣接町会との緊密なる連携と調和を保つ事を主な目的とし発足いたしました。

その精神は今も引き継がれ現在に至って居ります。

現在、当町会の主な事業内容としては地域の安全安心を守るため、防犯部、防災部による警戒、啓発活動、交通部による小中学生の通学時の安全誘導、婦人部による地域全体への目配り、そして、お年寄りから小さなお子様までをケアする、老人福祉部や青少年部の活動の充実にも町を挙げて取り組んでおります。

その中の例を挙げてみますと、年末特別警戒や春の各種安全活動、防犯部による地域パトロールや防災部による初期消火訓練、青少年部の夏休みの子供ラジオ体操会や子供広場（縁日）などなど……、また、吹上神社の宮元町会という事もあり、町内

には祭り好きの方も大勢いて、毎年祭礼の際には子供神輿、山車、そして大人神輿も大盛り上がりです。これも当町会の外せない行事の一つです。

そして最後になりますが、何よりも大切に思い、心がけている事は、役員は元より会員の皆様が隣近所との交流、高齢者への声掛けなど、古き良き昭和の下町の様な温かみのある町作りを念頭に、町会運営を行い続けたいという強い思いを持って活動するという事です。



被災地への募金活動を継続中

# 大塚坂下北町会

● 昭和29年3月結成

## ■ 歴代会長

初代 窪田 恒（昭和29年3月～昭和42年3月）  
二代 内田柳次郎（昭和42年12月～昭和50年3月）  
三代 五木田 明（昭和50年4月～昭和62年3月）  
四代 久保田 保（昭和62年4月～平成10年3月）

五代 鷹野エツ子（平成11年4月～平成18年3月）  
六代 今井 キヨ（平成18年4月～平成21年3月）  
七代 川上 清一（平成21年4月～）

## 町会のあゆみ

戦前は、大塚坂下町全町組織の大塚坂下町会であったが、戦後、大塚坂下南町会、豊島ヶ岡町会、大塚坂下北町会の三町会に改編された。昭和21年、大塚五丁目の一部、六丁目の北部の居住者をもって、大塚坂下北部協力会を組織し、会長に内田柳次郎氏が就任発足した。その後、昭和29年3月、大塚坂下北町会と改称した。

当町会は、人口概ね1,670人、豊島区東池袋五丁目に隣接している区界の小さな町会である。町会の主な活動は、敬老祝品贈呈、氏神祭典、青少年の非行化防止運動、防犯・防災・交通安全の強化促進、環境衛生の改善向上、会員の厚生・保健・弔慰などである。また、会員相互の親睦を図るため、秋の日帰りレクリエーション、年末のもちつき大会、夜間パトロール（子供も一緒）等の年間行事を行っている。

町会内の史跡などについては、江戸時代、小石川村の内に幕府の大塚御薬園があったが、廃園に伴い、その跡地は護国寺領となった。その後町屋が設けられ、現大塚三丁目交差点から護国寺へ下る富士見坂の坂下北側にあつたので坂下町と命名され、後に大塚坂下町となった。

開運坂は、大塚五丁目、六丁目の境を北へ下る坂で、降りた道路は、昔、監獄新道と呼ばれた。その向側には川が流れ、橋が架かっていた（現在の六丁目派出所付近）。その名も泪橋と名づけられ、渡って

出て来る人は巢鴨監獄の方をのぞみ涙ぐんだと伝えられている。



年末の火の用心（平成23年12月30日）



吹上稲荷神社鎮座100年記念 北陸神酒所町会役員（平成24年9月22日）



円覚寺（鎌倉）にて（平成24年10月21日）

## ■ 歴代会長

初代 栗本 俊道 (昭和25年5月～昭和36年5月 11年間)  
二代 岩崎 銀蔵 (昭和36年6月～昭和50年6月 14年間)  
三代 横山 長 (昭和50年6月～平成7年6月 20年間)

四代 松崎 米雄 (平成7年6月～平成19年6月 12年間)  
会長席空席 (平成19年7月～平成20年5月 10ヶ月間)  
五代 渡辺 康博 (平成20年6月～)

## 町会のあゆみ

大塚上辻町会は、昭和41年に大塚上町町会と大塚辻町町会が合併し、大塚上辻町会として結成され現在に至っております。

世帯数も多い時で、約660世帯程でしたが、現在は約530世帯に減少しておりますが、この減少は区画整理、又、御年寄りの方々が御子様の所へ引っ越ししたりした為の減少で、現在の所は若干ながら増加傾向にあり、町会としては、余り心配はしておりません。

町会役員はもとより、青年部員45名程、婦人部員 (地域班お母様含) 20名程で、

町会全体を見守り、町会等の催し物、イベント (別途写真)、夏 (流しソーメン)、秋口 (祭典、子供広場)、秋 (おもちつき大会) など、他にも色々なイベントには青年部、婦人部 (地域班お母様) の方々、又、町会の人達も大勢参加していただける為、イベントなども盛り上がり町会全体としての絆も強まり、安心して生活出来る町会だと思っております。



スイカ割り



流しソーメン



上辻号御祭り子供広場



祭典



もちつき大会



もちつき大会

## ■ 歴代会長

初代 菊池 基一（昭和24年7月～昭和26年3月）  
二代 穴沢 一（昭和26年3月～昭和41年3月）  
三代 中畝貞次郎（昭和41年4月～昭和43年4月）  
四代 綾部 美年（昭和43年5月～昭和52年4月）  
五代 羽鳥 林造（昭和52年2月～昭和56年5月）  
六代 武井 又三（昭和56年5月～平成6年5月）

七代 内野 剛一（平成6年5月～平成8年2月）  
八代 小島 道衛（平成8年3月～平成9年5月）  
九代 吉田 織恵（平成9年5月～平成14年1月）  
十代 磯川 八郎（平成14年1月～平成19年3月）  
十一代 加藤 雄三（平成19年4月～）

## 町会のあゆみ

古くは明治44年の「長清会」、大正12年の「社団法人窪町々会」を経て、昭和24年7月の結成となっています。その後「大塚窪町協力会」から「大塚窪町々会」と改称し、平成21年に会則を改めて「大塚窪町町会」として現在に至り、庶務部・広報部・女性部・厚生部・交通部・防災部・防犯部・環境部及び支部を組織して活動しています。平成23年10月に町会ホームページを立ち上げて、広く町会行事や活動を紹介しています。

町会は春日通りの東側の商業ビルの東側に位置し、地域内には教育の森公園・窪町

公園・窪町東公園のほか、筑波大学、放送大学、筑波大附属小学校、占春園、区立窪町小学校があり、教育の森公園には区のスポーツセンター、防災広場や災害時の飲料水地下槽があります。地域全体に緑が多く、環境に恵まれた静かな住宅街で、マンションが多く戸建住宅が建ち並んでいます。

茗荷谷駅前交番を湯立坂に入ったところに1988年文京区とドイツ国カイザースラウテルン市と姉妹都市提携のシンボルの記念広場があり、神話の一角獣や魚、アンモナイト等の6点の彫刻が、樹々に囲まれて置かれています。



カイザースラウテルン広場

## ■ 歴代会長

- 初代 北原 千秋（昭和24年3月～昭和58年5月14日 34年2月）  
二代 西條 市郎（昭和58年5月15日～平成9年5月11日 13年11月）  
三代 石井 彦澄（平成9年5月11日～平成11年6月13日 2年1月）  
四代 大谷 文尚（平成11年6月13日～平成17年5月14日 5年11月）  
五代 西田 昭男（平成17年5月15日～平成21年5月16日 4年）  
六代 宮地 健（平成21年5月17日～）

## 町会のあゆみ

大塚一・二丁目町会は安全・安心の街づくりをテーマに結束と融和をはかり、町内活動を推進しております。特に子供達にとって幼い頃からのイベントの楽しい思い出づくりを力強く心掛けています。又、子供達に町内の人々が防犯・防災にどのようにかかわっているかという事を実際に大人との合同パトロールにより体験してもらっています。子供達に現実の行事の楽しさと厳しさの両面を知ってもらうためです。下の写真は夏休みの子供会及び秋祭りの楽しいスナップです。



夏休み子供会



祭礼風景（平成24年9月22日）



祭礼風景（平成24年9月22日）



ヨーヨー吊り、ボンボンすくい

## ■ 歴代会長

- 初代 川田 留吉 (昭和24年5月～昭和39年5月)
- 二代 藤沢藤次郎 (昭和39年5月～昭和48年5月)
- 三代 安田 重春 (昭和48年5月～平成9年11月)
- 四代 福井 ヌ吉 (平成9年11月～平成16年5月)
- 五代 中尾 修 (平成16年5月～平成18年5月)
- 六代 鋤形 光男 (平成18年5月～平成22年5月)
- 七代 若井 行雄 (平成22年5月～平成25年8月)
- 八代 尾崎桂一郎 (平成25年8月～)

## 町会のあゆみ

私ども「文京中央町会」は昭和23年5月、前身である「三和協力会」を発展的に解消し創立されました。当時は、敗戦直後の混乱から立ち上がり、戦後の復興が緒についたばかりの時期でしたが、「町内の絆を作ろう。」という諸先輩方の熱意と行政のご協力により会が誕生したものといたします。

以来、今日まで役員会員の皆様方の多大な尽力に支えられここに創立60周年を迎えることができました。この間、都電は廃止になり茗荷谷駅の1日乗降客は10万人を数える賑わいでした。オフィスビルやマンション等、町の発展は目を見張るものがあります。

町会事業としては春秋の交通安全運動へ協力、春秋の火災予防運動の協力。また春の播磨坂桜まつりは、文京五大花祭りの一つになるまで推進しました。町内氏神様は

吹上神社、小日向神社、簸川神社の祭礼合同執行化に成功しました。その他は夏期のレクリエーション、ラジオ体操、敬老の日の催し、就学児童への記念品、防災訓練防災講習会、防災コンクールへの参加、正月には関東有名神社への初詣り、氏神様での豆撒き等、広範囲に亘り町会員の福祉と文化の向上に努めております。

近年における子供達を取巻く環境の変化により「安全安心」の街づくりをスローガンに置き、問題解消に繋がる様、心がけて活動しております。



防災訓練での消火活動 (平成25年3月)



文京さくらまつり

## ■ 歴代会長

初代 黒川勝太郎（昭和26年9月～昭和26年10月）  
二代 近沢角太郎（昭和26年10月～昭和28年10月）  
三代 秋山松太郎（昭和28年10月～平成6年3月）  
四代 大野 晴弘（平成6年3月～平成13年3月）

五代 本多 浄道（平成13年3月～平成20年6月）  
六代 諏訪部 武（平成20年6月～平成24年9月）  
七代 松本 秀雄（平成24年9月～）

## 町会のあゆみ

この地域がいつ頃から「久堅」と呼ばれたのか、確たる証拠は存在しないようだが、明治中期の地図には「久堅」が明記されている。一説には明治初期に「久保町」を改めた名称ともいわれている。その地域に昭和初期、久堅自治会の前身である久堅町会が発足した。それは他の地域と同様、満州事変から始まる戦時下で行政との連帯、連携を強化する目的で、隣接する町を含めた総意により発足した。

ところが、昭和20年に敗戦、同時に久堅町会も廃止となる。

その後、組織は無形であるが、有志の実質的な町内会活動により、町の復興や生活環境の改善を進めてきた。昭和27年、町内会活動が解禁になると前後して、再び町会を立ち上げた。その名称を「久堅町自治会」とした。後に「久堅自治会」と改称する。

以後、秋山松太郎氏の下、活発な活動が展開される。基本的な組織づくりはもとより、祭礼をはじめ、盆踊り、のど自慢大会、相撲大会、海水浴等々、町会行事も活発化してきた。

正に「久堅自治会昭和黄金期」といっても過言ではない。昭和後期からは執行部役員の高齢化もあり、青年部が実質的な町会運営を行う。従来の組織体、活動の良い面を踏襲し、変化する町内環境、それに伴う人間関係の多様化に対応すべく積極的な活動を続けてきた。

現在、当時の青年部員の大半が執行部役員として、祭礼、レクリエーション、敬老、成人、入学の祝い等々多岐にわり活動中。更に防災、防犯の啓蒙活動を行いつつ、時代に即した町会組織の在り方、運営方法を模索し「住んで良かった」そんな町づくりを目指し活動をしている。



久堅自治会2011年新年会 居酒屋北海道・後楽園にて



久堅自治会さくら祭

## ■ 歴代会長

初代 山元 正宣（昭和26年9月～昭和28年9月）  
二代 大西 留吉（昭和28年10月～昭和33年9月）  
三代 伊藤 義雄（昭和33年10月～昭和36年9月）  
四代 秋葉 正治（昭和36年10月～昭和38年9月）  
五代 岩佐 新治（昭和38年10月～昭和48年8月）

六代 小林 詮（昭和48年8月～昭和56年9月）  
七代 荒川 武一（昭和56年10月～平成7年11月）  
八代 佐々木惟雄（平成7年11月～平成17年12月）  
九代 奈良 利男（平成18年1月～平成23年11月）  
十代 雨倉 源一（平成23年11月～）

## 町会のおゆみ

当町会は、大正7年1月に創立された。初代会長は水谷影長氏、以後岡田国太郎氏、西澤仙太郎氏等諸氏が歴任した。戦後は、昭和26年9月に復活した。当町会内には史跡がある。霊験あらたかな清水が溢れ流れていた土地に、数年前に小石川パークタワーが建てられた際、その敷地内の泉水と共に、古くから祀られていた弁財天も移され、檜造りの社殿が建立された。ご神体は美しい白蛇で、その脇に絵図があり、この弁財天を長く守って来られた故人大橋芳江さんが、生前富士浅間大神の掛絵図を富士浅間神社から受けお祀りされたと伝えられ、そのお姿は女神である。

平成6年に「平成の小石川七福神」が創設されるに当たり、その一神に加えられ七福神巡りの方の参拝を得ている。

当町会では、もちつき大会、さくらまつり、ラジオ体操、菓撒き、防災体験、花火

大会、簸川神社大祭、新成人・新入学・敬老のお祝い、資源回収、防犯パトロール、年末夜警等の他にも、ディズニーランド・ディズニーシー・ツアー、バスツアー、明治座観劇等、会員間の親睦・町内の安全・福祉に重きを置いた行事を行っている。特に簸川神社例大祭では、平成10年に他町会も行われなかった町会神輿の宮入りを果たし、現在に至っている。



平成21年夏休みラジオ体操



昭和31年9月簸川神社大祭



平成14年9月夏休み子ども花火大会

## ■ 歴代会長

初代 鴻田 義光（昭和31年10月～昭和39年9月）  
二代 鈴木 富雄（昭和39年9月～昭和50年4月）  
三代 鎌原 義則（昭和50年5月～昭和55年9月）  
四代 和田 仁一（昭和55年10月～昭和59年9月）

五代 鎌原 義則（昭和59年10月～平成4年9月）  
六代 深谷 君彦（平成4年10月～平成12年9月）  
七代 渡邊 秋彦（平成12年10月～平成22年9月）  
八代 坂巻 三登（平成22年10月～）

## 町会のあゆみ

久堅の名を冠した町会は親交会を含め現在4町会あります。小石川久堅町は江戸期の小石川橋戸町、久保町、宮下町飛地並びに宗慶寺門前、松平播磨守上屋敷を合併し明治の初年小石川久堅町の町名を付されたとあります。

東京の町内会は明治も中期を過ぎた頃より、さまざまな会が母体となり創られたようでもあります。

大正12年9月1日に突然起こった関東大震災により治安が悪化し不安と恐怖の中で不自由な生活を送る事となり自らの手で街を守ろうと団結した人達で自警団が組織され町内の警備に当たるようになった。やがて治安が回復されると、その組織は後に町会として形を変えて行った。

現在の久堅親交会の前身である久堅町東部町会も自警団が発展的解散をして大正12年12月1日に鴻田秀一氏のもとに設立されたものであります。

当時の概要は戸数246戸、会員238世帯、掲示板3。

その久堅町東部町会も大東亜戦争に突入り、戦争末期に隣接の町会と合併して久堅町南町会と改称したが間もなく終戦を迎え、やがて昭和22年3月、占領軍によって町会の組織は廃止され、創立以来23年3ヵ月を以ってこの町会は解散するに至ったのであります。

昭和29年9月簸川神社の祭礼に際して、鴻田義光・玉井源太郎氏ら町内の有志が発起人となり久堅子供会を結成して、隣接の表町町会より御神輿を借用して、子供達を喜ばせた。

その後、久堅子供会にも自前のお神輿をと、翌30年町内多数の方々よりご寄付を仰ぎ、念願の御神輿と山車が出来あがり子供達や関係者を大いに喜ばせた。

昭和31年9月久堅子供会は、前記発起人を始め多くの方々の協力を得て、町会廃止以来8年目にして、ようやく復活した久堅親交会に併合されたのであります。

当町会は創設以来、和をモットーとして、会員相互の親睦と扶助をはかり、特に青少年の健全育成に力を注いできました。その後、高齢化時代を迎え「久堅コミュニティ」を立ち上げ高齢者の憩いの場を提供して喜ばれております。又防災の面では3・11以来、町会員の安全を第一にと備えに取り組んでいる所であります。



防火・防災訓練

## ■ 歴代会長

初代 田中次郎吉（昭和30年8月～昭和36年3月）  
二代 本田 弥市（昭和36年4月～昭和39年3月）  
三代 山川 忠平（昭和39年4月～昭和45年3月）  
四代 武藤 一郎（昭和45年4月～昭和50年3月）  
五代 山川 忠平（昭和50年4月～昭和60年3月）  
六代 安斉 利夫（昭和60年4月～平成元年3月）

七代 武藤 一郎（平成元年4月～平成3年3月）  
八代 廣瀬喜久雄（平成3年4月～平成9年3月）  
九代 小林 勇（平成9年4月～平成17年3月）  
十代 井上 義一（平成17年4月～平成23年7月）  
十一代 阿達 正敏（平成23年8月～）

## 町会のあゆみ

### ■ 町会結成までの経過

旧久堅町会解散後、爾来田中次郎吉氏等町会内居住の長老有志が心をくだき、昭和30年8月1日現在の久堅西町会結成するに至る。

### ■ 町会の現在の主な活動状況

1. 文京さくら祭りに参加協力。
2. 隔年の簸川神社例大祭に町内神輿渡御、山車巡行の実施。
3. 小中学校行事への参加、夏期休暇時のラジオ体操、レクリエーションの実施。
4. 春秋交通安全週間運動に協力。
5. 町内の安全を図り、消防訓練を行ない、救命講習の助成、年末防犯夜警の実施。
6. リサイクル活動（古紙回収）の実施。
7. 区報配布、町会報作成等の広報活動実施。

### 8. 会員間の交流促進の実施。

### ■ 町会の特質

当町内には商店街がなく、マンションが比較的多い、静かな住宅街である。

世帯数約450世帯、約1,000名が居住している。

### ■ 町会内の史跡

小石川5丁目11番7号に東京都指定文化財、石川啄木終焉の地の碑がある。



テントの中は大忙し さくら祭



区長と共に 簸川神社大祭



町の安全を守るため・子供夜警

# 春日二丁目町会

● 昭和25年4月結成

## ■ 歴代会長

初代 岡田 政康（昭和25年4月～昭和41年5月）  
二代 小林 次郎（昭和41年5月～昭和56年6月）  
三代 望月 行雄（昭和56年6月～昭和56年8月）  
四代（代行）井狩進太郎（昭和56年9月～昭和57年5月）  
五代 後藤 徳茂（昭和57年5月～平成2年5月）  
六代 伊藤 公夫（平成2年5月～平成16年5月）

七代 楠本 義雄（平成16年5月～平成17年6月）  
八代 中島 和子（平成17年6月～平成18年9月）  
九代（代行）品田ひでこ（平成18年10月～平成19年5月）  
十代 楠本 義雄（平成19年6月～平成20年5月）  
十一代 村越 義晴（平成20年5月～）

## 町会のあゆみ

昭和39年に町会名が、「春日二丁目町会」と改称されてから、金富、同心の町名が消えてしまいました。金富は歴史ある小学校の名前で残されていますが、江戸時代、同心屋敷があったと言うなごりは、巻石通りへ続く静かな佇まいに偲ばれるだけとなっています。

今井坂（新坂）にある徳川慶喜終焉の地は、「仏教大学 大学院大学」となり大銀杏は、シンボルツリーとなっています。

春日通り沿いはマンションが建ち並び、町並みは様変わりしました。現在は1,000世帯50班の内、半分の25班はマンションとなっています。町会行事の、新年会、バスハイク等にはマンションの方々の参加者も多くみられます。

交通安全、防火防災、金富小学校・茗台中学校の子供たちとのふれあい、近隣町会との共催の行事等を、役員を中心に町会員の皆さまの多くの参加を得て、実施しています。

### ■ 平成25年度行事予定

4月 新入学児童祝・春期交通安全運動  
5月 町会総会  
7月 礪南5ヶ町夏祭・夏休みラジオ体操  
9月 敬老祝の会・秋期交通安全運動  
10月 日帰りバスハイク  
12月 年末夜警  
翌1月 新年会  
翌2月 フラワーアレンジメントの講習会  
翌3月 防火・防災訓練



平成24年10月21日（日）バスハイク “清里高原散策と小海線の旅”

## ■ 歴代会長

初代 四宮 久吉（昭和24年4月～昭和34年3月）  
二代 河野美三九（昭和34年4月～昭和44年3月）  
三代 中井初次郎（昭和44年4月～昭和52年6月）  
四代 並木新之助（昭和52年7月～昭和55年7月）  
代行 内田松五郎（昭和55年7月～昭和57年5月）

五代 内田松五郎（昭和57年5月～平成元年2月）  
六代 並木 茂治（平成元年2月～平成7年5月）  
七代 小林 貞夫（平成7年5月～平成15年5月）  
八代 諸留 和夫（平成15年5月～）

## 町会のあゆみ

護国寺前の不忍通りとお茶の水女子大学と音羽通りから東に1本入った小路にはさまれたこじんまりとした町会である。不忍通りに面したところは住宅や店舗が高層マンションへと変わっていきつつある。大通りから中に入ったところは道幅が狭いので高層マンションは建たないため昔ながらの低層の建物が残っていく。

正月は新年会、冬は防災コンクールへの出場、春は播磨坂でお花見、新年度の5月は総会、初夏は日帰りバス旅行、夏の終わりに今宮神社の例大祭と町会が実施する縁日、12月は餅つき、その間には春と秋の全国交通安全運動や歳末特別警戒で夜警の夜回りと行事等は多くある。

「町会のために」を基準に儀式や行事を大切にしていかないと町会は衰退していく

との思いからこれまでの先人たちが築いた道を少しずつ進化させながら人々の幸せを目指して歩いていく。



総会



祭礼縁日



餅つき会



防災コンクール



町会日帰り旅行（箱根芦の湖）



南からみた町会全体



# 第六天町会

● 昭和24年7月結成

## ■ 歴代会長

初代 八坂 進（昭和24年7月～昭和56年3月）  
二代 高野 一郎（昭和56年4月～昭和59年9月）  
三代 鶴島 信通（昭和59年9月～昭和60年3月）

四代 長島 清（昭和60年4月～平成10年3月）  
五代 鶴島 信通（平成10年4月～平成18年3月）  
現在 奥山 孝夫（平成18年4月～）

## 町会のあゆみ

### 地名の由来

第六天町会の地名は正徳3年（1713年）の昔、町内に第六天社（五穀豊穰の氏神さま）が祀られていたことに因むとされています。第六天町会の氏神さまは服部坂上の小日向神社です。

### 第六天町の事例・活動

◎明治27年6月生まれの吉田 衛氏（ペンネーム・礫南散史氏）が書いた著書・礫南夜話が、第六天町町の宝物として受け継がれ、保存されています。

①地名の由来にはじまり ②明治35年頃から明治末年まで ③大正初期から戦災を受けるまで ④町内こぼれ話 ⑤町内に住まれた名士等々歴史が項目別に詳細にわたり記述されています。

◎第六天町は徳川幕府15代将軍「徳川慶喜」終焉の地です。戦火を免れた小日向第六天邸と敷地は戦後、国に物納され大蔵省

（現・財務省）の官舎として使用され、平成19年に国際仏教学大学院大学が取得、徳川「最後の将軍」慶喜公が住まれたイメージを取り入れたデザインにより歴史の流れを継承し、緑豊かな環境造りに沿った校舎が作られました。

平成23年「大銀杏や地形などを生かした配置・デザイン等々により歴史の流行を現在に繋ぎながら潤いのある環境を創造している」との評価により「第10回文の京景観創造賞」を受賞しました。江戸幕府最後の将軍・慶喜公は、小石川水戸藩上屋敷（現・小石川後楽園）に生まれ、第六天町54番地（現・春日2-8-9）で大正2年11月22日に没しました。平成25年は慶喜公没後100年の記念すべき年であり、第六天町会では文京区の企画に基づき数々のイベントを開催しました。平成26年3月文京区指定文化財（史跡）に指定されました。



樹齢250年余といわれている大銀杏



緑豊かな環境造りに沿った校舎

## ■ 歴代会長

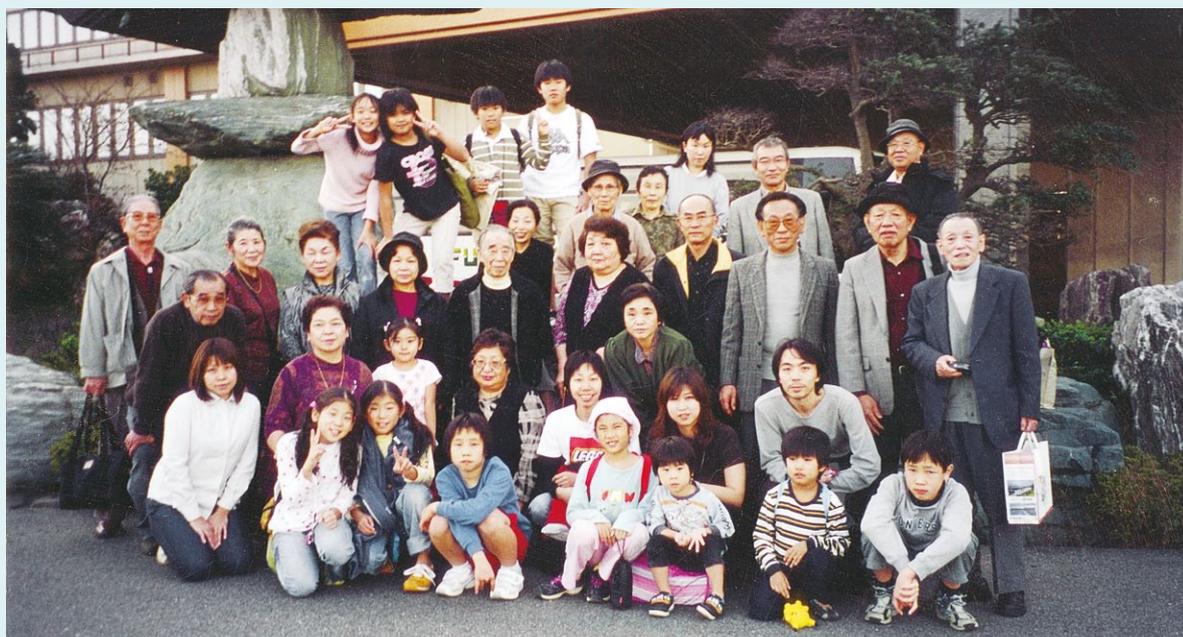
- 初代 森田 忠一（昭和26年4月～昭和49年1月）  
二代 藤井 隆信（昭和49年1月～平成2年3月）  
三代 杉岡 大吉（平成2年4月～平成3年10月）  
四代 平野 敏男（平成3年11月～平成9年5月）  
五代 森田 忠雄（平成9年5月～平成14年10月）  
六代 岩本 迪（平成14年11月～）

## 町会のあゆみ

昭和14年4月より大東亜戦争終結まで礪南町会（今の第六天、水道端、西江戸川、武島各町会四ヶ町の連合であった）に所属しておりました。礪南地域一帯は明治維新までは徳川直参の旗本屋敷で、武島町会もその一部で武島某有力者が住んできた所からその名が付けられたと言われている。昭和26年4月より武島町会一町会として活動。又、近隣町会と親睦を計り各行事を共催して行っている。

### 年間行事予定

4月	交通安全	3ヶ町
7月	五ヶ町夏祭り	5ヶ町
	五ヶ町ラジオ体操	5ヶ町
9月	交通安全	3ヶ町
	三ヶ町秋祭り	3ヶ町
11月	町内旅行	
12月	町内餅つき大会	
	歳末警戒	
1月	4ヶ町新年互礼会	4ヶ町
	小石川七福神めぐり	
	毎月第4金曜日資源リサイクル	



毎年行われる町会旅行での記念写真

# 水道端町会

● 昭和25年3月結成

## ■ 歴代会長

初代 三好登左嘉（昭和25年3月～昭和53年6月）  
二代 小山 高勝（昭和53年6月～平成3年5月）  
三代 丹内 正孝（平成3年5月～平成10年5月）

四代 鈴木 伸男（平成10年6月～平成25年5月）  
五代 小山 一平（平成25年5月～）

## 町会のあゆみ

「町会のあゆみ」については、前回の30年誌で既にも書き尽くされていると思われるのですが、その後の展開としては、他の町会の悩み同様に、林立するマンション等の大きな建物の建設があり、個人と個人（住民）の触れ合いが少なくなりつつあることでしょう。

江戸時代初期から明治に至るまで、神田上水が江戸の街を潤していたことは周知のことです。その水路は現在の巻石通りの水道2丁目と小日向2丁目の間にもありました。上水道の南岸が水道2丁目であり、北

岸が小日向2丁目、水道をまたがって両端にあったので水道端という街があったわけです。小日向2丁目の方より「何故私達の街が水道端なのか」という問いを出されたことがあります。

先の大戦後、行政の区分によって水道と小日向に分かれたことが、そのような疑問となって現れたのでしょう。

行政区分を超えた、長い町会の歴史が、私達住民の中に根付いて居て、それが町会の存立の条件となっているように思われます。



防災訓練（平成6年5月8日）



礪南三ヶ町祭礼（平成7年9月17日）



祭礼夜の模擬店（平成23年9月10日）



礪南夏まつり（平成24年7月15日）

# 西江戸川町会

● 昭和25年4月結成

昭和25年「西江戸川町協和会」・昭和34年「西江戸川町会」に改組

## ■ 歴代会長

初代 大町 茂夫（昭和25年4月～昭和31年3月）  
二代 石塚 盛隆（昭和31年4月～昭和51年5月）  
三代 古川欣一郎（昭和51年6月～平成11年5月）  
四代 朝香 勝利（平成11年5月～平成15年4月）  
代行 中野 裕生（平成15年5月～平成15年7月）

五代 高木 雄二（平成15年7月～平成16年3月）  
六代 仲野 裕生（平成16年9月～平成18年5月）  
七代 岡島 洋紀（平成18年6月～平成20年5月）  
八代 新井 攻（平成20年5月～）

## 町会のあゆみ

西江戸川町会は洪水の多い町でした。台風、大雨の時は満潮の時間を調べ、満潮の時は床上浸水になる可能性がありました。最近では環状七号線の地下に地下水路が出来、ここ10年以上水が出なくなりました。当町会は印刷業、製本業の会社が多く経営しておりました。自営業者が多く、町会会員は若い方々が町会運営を協力していただき、盛大でした。現在はマンションなどの大きな建物で住民との触れ合いが少なくなりました。

### ■ 町会行事

新年会・総会・防災訓練・花見・ラジオ体操・夏まつり・小日向神社祭礼・町会旅行・赤十字奉仕・年末夜警・春秋全国交通安全週間テント設営協力



小日向神社  
秋の例大祭 境内記念写真



小桜橋  
昭和10年6月1日架け替えられた竣工記念写真

## ■ 歴代会長

初代	静永 孝英 (昭和24年～昭和31年)
二代	高田 栄 (昭和31年～昭和33年)
三代	平野幾三郎 (昭和33年～昭和41年)
四代	柏木 栄一 (昭和41年～昭和45年)
五代	静永 孝英 (昭和45年～昭和53年)
六代	高松 秀幸 (昭和53年～)

## 町会のあゆみ

昭和24年5月開催の総会で静永孝英氏が町会長に選任されてから今日までが茗荷谷町会のあゆみです。

町会の範囲は小日向1丁目2番、3番、10番及び14番から26番、小日向3丁目6番から3番6号まで、小日向4丁目1番から9番までとなっています。

この区域の世帯数は区の統計によれば、1,300世帯となっていますが、この数字は奈良県などの独身寮（学生寮）の住民を含むもので、いわゆる戸別世帯でいうと概ね900世帯が茗荷谷町会の世帯数です。

町会連合会などで未加入世帯のことが話題になることがありますが、茗荷谷町内は全世帯が町会に加入されています。

町会の活動については23区内でも1、2位といわれています。このことはテレビのバラエティ番組でも取り上げられたことが



スイカ割り(夕涼みフェスティバル)

あります。

ここで主な行事を紹介させていただくと①除夜の鐘を撞く会、②新春歩こう会、③初午祭（町会が所有管理している宗四郎稻荷神社のお祭り）、④もちつき大会（路上でのもちつき大会は23区内での発祥の地）、⑤小・中学校の卒業入学を祝う会、⑥春秋の交通安全運動、⑦町内消毒（蚊と蝇の駆除活動）、⑧夏休み中のラジオ体操会、⑨毎月1回の町内防犯パトロール、⑩防犯、防災、交通安全の三活動で夕涼みフェスティバル、⑪秋の祭礼行事、⑫敬老行事（節寿を祝う会）、⑬ハロウィン、⑭年末特別警戒運動、⑮除夜の鐘を撞く会の準備。



流しそうめん(秋まつり行事の一つ)

これらの活動は町会役員会の議を経て、婦人部、次世会（青壮年部）を中心に町内の全ての人（自由参加）が参加して行われています。

## ■ 歴代会長

初代 次田大三郎（昭和30年5月～昭和32年3月）  
二代 山口 寿信（昭和32年4月～昭和42年3月）  
三代 與田 勝蔵（昭和42年4月～昭和52年8月）  
四代 伊藤 秀文（昭和52年9月～昭和56年5月）

五代 西川 勝一（昭和56年6月～昭和60年4月）  
六代 内藤 十三（昭和60年5月～平成14年3月）  
七代 篠 文一（平成14年4月～平成26年5月）  
八代 宮本 忠昌（平成26年6月～）

## 町会のあゆみ

本町会は昭和初期に地域の親睦団体として組織され活動を開始した。しかしながら戦争によりやむなく中断され、復興を願う地域の人々の努力と協力により昭和30年5月に再興された。会員相互の親和を期し、併せて公共事業に協力し、町の向上発展、福祉増進を図り明るい町とすることを目的に掲げ、初代会長に内閣法制局長官等を歴任された次田大三郎氏を迎え発足した。その後歴代会長のご尽力により発展の一途をたどり、今日に至っている。

婦人部も歴史は古く、戦前の国防婦人会・愛国婦人会にルーツを發し、大塚仲町婦人会と改称後町会組織に編入され、今日では、その活動は町会運営の重要な役割を担う大きな力となっている。

町会の主な活動は新春の賀詞交換会に始まり、新成人の祝い、日帰りバス旅行、夏休みのすいか割り、ラジオ体操、敬老の祝い、吹上稲荷神社祭礼、歳末警戒パトロール等々



小雨の中、子供達が頑張っていました

を実施し、また、官公庁の協力事業として春秋の交通安全運動・防犯運動、冬春の火災予防運動、防災コンクール・救命講習会への参加、リサイクル活動、特別養護施設“くすのきの郷”の救助隊活動等、広範囲にわたり町会目的に沿って活動を続けている。

特に最近では、すいか割り、祭礼等子供たち中心の行事では、町会員の子供のみに限定せず全ての子供を受け入れ、町のそして地域の賑わい、活性化に努めている。

現在、地域の歴史を後世に伝える活動として『大塚仲町散歩』を行っている。資料の収集や聞き取り調査を繰り返し、大正末期の町並みの古地図を作成し、担当役員の案内で町内を散歩し、『今』との変化・発展を伝承している。



探検散歩募集ポスター

## ■ 歴代会長

初代 浦田関太郎（昭和30年～昭和39年8月）  
二代 河野 平市（昭和39年8月～昭和51年3月）  
三代 彦坂 保（昭和51年4月～昭和52年8月）

四代 渡辺 昭雄（昭和52年8月～昭和58年6月）  
五代 松本 茂雄（昭和58年6月～平成16年4月〈25年間〉）  
六代 藤井 寔（平成16年4月～）

## 町会のあゆみ

この協力会の地域は旧大塚仲町三六番地と三八番地で、主として旧桑名藩の藩主松平家邸内の約壹万坪の土地であった。

日露戦役後、小石川砲兵工廠で兵器を作っていた人々が戦勝の波に乗って家を建てた人々が、高等師範学校が古くからあり学校職員その他の勤人が多くこの町に移住してくる様になった。

大正12年9月1日の「関東大震災」のため、東京の下町の6割が消失し被災者が敷地を求めて殺到し家を建てた。浴場、郵便ポスト、酒屋、豆腐屋などが次から次へと出来て住宅街が町らしくなっていった。

人口が増加するにつれて自然と仲町に会が生まれた。

昭和20年の4月と5月の2回にわたる大空襲で、この地域も全焼した。

戦後この地域の大半を所有していた松平家が、財産税の為に宅地の全部を国に物納したということで騒ぎになり、町の有志達が国に土地の払い下げ交渉を行った。その結果、昭和30年6月4日に大塚仲町協力会創立総会が開かれ、協力会の母体たる一歩を踏み出すことになった。

当時は戦後のめざましい経済復興により住宅・交通も整備され、交通至便と恵まれた文教地域、閑静な土地柄が大きな魅力となり、戦前にも勝る住宅地として多くの人が移住してくるようになった。

その後、町会運営も民主的・理想的な新しい町作りを目標に運営され、昭和61年5月18日大塚小学校体育館に於いて、45名

の来賓を迎えて盛大な創立30周年の式典・祝賀会が行われた。

また、昭和62年4月には大塚病院の開院、昭和63年4月には文京区特別養護老人ホーム・福祉作業所・授産所が開設され、街路も整備されて付近は面目を一新した。

町内では、昭和60年3月に公衆浴場「桜湯」が消え、昭和62年には開拓会館が廃業し旧桑名藩主松平家の御殿造りの棟屋も消え失せて、三室戸学園の運動場となった。

近年町内には耐震建築（3階建て）が多く建築されるようになり、町会としてもこうした地域環境の変化に適応した心ふれあう・明るい・住みよい町となるよう努めなければならない。

平成3年4月1日には社会福祉法人槐の会の障害者福祉施設が開設された。同年4月10日には大塚公園の改修工事も完了し、大塚公園集会所・みどりの図書館も開所となった。また、平成4年4月1日より隣接地の区域内に文京区立第2特別養護老人ホームと併設のシルバーピアおおつかが開設された。

時代の変化も加わる中、歴史伝統を共有し先人の教えを守りながら、悪しきを正し、良さを残し、住みよい町作りに努力していかなければならない。

平成の時代も25年に入って、少子高齢化や世代交代も進み地域環境も変わる中、先人達が進めてきた民主的・理想的な住みよい町作りに努力するのが後人私たちの責務であると思う。



湯の谷やまびこ荘への町内会旅行



創立30周年記念式典

# 小日向台町町会

● 昭和29年4月会則制定

## ■ 歴代会長

初代	池田 喜一（昭和24年4月～不明）	八代	小林 利隆（昭和51年4月～昭和57年5月）
二代	中江 要助（不明）	九代	窪田 稲雄（昭和57年6月～平成16年5月）
三代	長尾 政治（不明）	代行	河井 志郎（平成15年11月～平成16年5月）
四代	額賀 秀一（昭和36年4月～昭和37年3月）	十代	河井 志郎（平成16年6月～平成17年5月）
五代	飯塚 信夫（昭和37年4月～昭和39年3月）	十一代	小川 忠博（平成17年6月～平成24年5月）
六代	藤巻 茂夫（昭和39年4月～昭和47年3月）	十二代	勝井 邦彦（平成24年6月～）
七代	飯塚 信夫（昭和50年4月～昭和51年3月）		

## 町会のあゆみ

### ■ 立地、環境

東に小石川台地と春日通、南に巻石通と神田川、西に関口台地と音羽通に接する小日向台地の頂上部分にある。小日向2および3丁目を中心に、ビークルは通るものの静かな低層の住宅街である。

### ■ 町会活動

毎月の活動：防犯・防災パトロール、放射線測定など 年間の活動：春秋の交通安全活動、年末の火災予防夜警、春の桜祭り、夏休みラジオ体操、秋の小日向神社例大祭＋子供祭り、12月の餅つき、入学および敬老のお祝い金贈呈などを行っている。

防災活動：被災時への対応を念頭に、特に力を入れている。63か所の消火器やD級ポンプに加え、今年カセットボンベ発電機やスタンドパイプを導入し、色々な機会を利用して町会員参加による操作訓練を行っている。避難所である小日向台町小学校の運営協議会は、町会とは別組織であるが、そこでの訓練活動を全町会的取り組みで担っている。

広報活動：11か所の掲示板に加え、A4版カラー 4ページの「町内だより」を年4回発行している。また町会ホットラインも常備し、町民からの問合せ要望を直接受けている。



9月の小日向神社例大祭＋子供祭り（平成24年には700人を超える人で賑わった）

### ■ 町会組織

最高の意思決定機関である総会は、5月下旬に開催される。決算の承認、事業計画や予算の決議、会長・監査の選出などを行う。町会域は12の支部に分かれ、支部長は複数人の地区代表から選ばれる。支部長会は総会に次ぐ意思決定機関であると同時に、各支部の業務を分担執行する。執行機関としては、会長のもとに、複数名の副会長および常任理事がおり、それぞれ総務、会計、文化厚生、企画広報、環境、防犯交通、防災防火の各業務を分掌する。役員の任期は2年で、再任できる。ただし、会長のみは3期6年を限度としている。

### ■ 財政

町会費、寄付金と補助金で賄っている。主たる財源である町会費は、各世帯に一口1200円の整数倍口数を申告の上、納付していただいている。事業会社、商店がほとんどないため、寄付や広告収入が乏しいという点が特徴である。

### ■ 課題

安全安心で、住んで嬉しい街づくりのためには、課題は多いが、町民と町会組織と一緒に考え、共に活動して行くことによって、着実に解決の道を見つけていきたい。



防災活動の一例（ラジオ体操の後、スタンドパイプのデモンストラーション）